



本県では、特別支援学校(知的障害)が参加する交流スポーツ大会を年3回行っています。ソフトボールの部、バドミントンの部、バスケットボールの部の三つです。平成27年度から「スポーツを通して触れ合い、共に活動することによって障害に対する理解を深め、豊かな人間性を育む」こともねらいとして加え、障害のない生徒との交流も企画しています。今回は、昨年12月に本校が担当したバドミントン大会「写真」について説明します。

バドミントンの技術に応じて1部と2部に分かれ、それぞれ団体戦、個

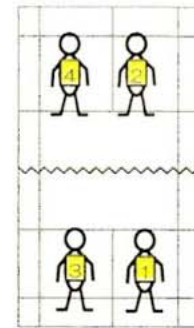
高校生とバドミントンで交流

<ゼッケンの着用について>

サーブをとったチームのサーバーが①、そのペアが③、サーバーの正面の選手が②、そのペアが④のゼッケンをつける。

・サーブは①→②→③→④の順に移動する。

・自分の点数が偶数のときは右側から、奇数のときは、左側からサーブを行う。(シングルスも同様)



人戦を行います。ルールとして配慮していることは、①団体戦ダブルスは、選手がゼッケンを着用し、サーブを打つ人がどの人か生徒も審判も分かりやすくする。☒参照②体力面を考慮して、1ゲームの得点は1部15点、2部11点とする③ある程度のネットタッチ、オーバーネットはOKとする④という大まかに言えばこの3点です。

高校生との交流ゲームの部では、県立勝山高校女子バドミントン部の生徒が参加しました。山口茜選手の後輩たちです。特別支援学校の生徒は、普段の練習の成果を思いっきりぶつけていました。

勝山市はバドミントンが盛んで、小学生から社会人までバドミントンを楽しんでいる人が大変多い町です。本校高等部の生徒数人も、帰宅後、勝山市の地域のクラブチームの練習に参加しており、地域の人は温かく迎えてくださっています。

このスポーツの特徴は、運動量が多く、1対1でも楽しめ、どの世代も能力に応じて楽しめることです。卒業しても、地域の中でバドミントンという生涯スポーツを通して人と関わり楽しむ、それが自然にできるのがこの町、この学校です。

(米澤礼子・福井県立奥越特別支援学校教頭)